

ハオルシアニュース

HAWORTHIA NEWS No. 29 2014年4月

ハオルシアフェスタ2014まであと1週間ほどとなりました。ハオルシア研究29号は4月17日発行ですが、発送は4月20日に間に合いませんので、当日会場にいらした会員の方には会場で直接お渡しします。しかし連絡事項など事前にお知らせする必要のあるものもありますので、このハオルシアニュースだけ先に発送することにしました。

- ◎ ハオルシアフェスタ2014の懇親会の料理メニュー(参加者各自の選択、すべて1人前膳)などを載せた新しいチラシをホームページに掲載しましたが、インターネットを使ってない会員の方もいらっしゃいますので、改めて同封してお送りします。
- ◎ ホームページのご案内では懇親会や出店の申し込み期限を4月15日としましたが、このニュースが皆様のお手元に届くのがこの期限ぎりぎりになると思いますので、もう少し延長して **4月17日 20:00** とします。準備の都合上これが最終期限となりますので、日程を調整中の方など、参加をご検討中の方は必ずこの日までにお申し込みください。
- ◎ 出店や品評会用など多数の苗を車で搬入される方は裏面KFCホール駐車場案内図を参照して、地下荷捌き所から矢印に従って搬入用エレベーターで会場まで搬入してください。一般来場者用エレベーターやエスカレーターでの搬入はできません。必ず搬入用エレベーターをご利用ください。また台車は各自でご用意ください。
- ◎ 品評会の区分の内、『オブツーサとその他軟葉系』を、『オブツーサ類』と『その他軟葉系(まだら系、裏窓系、小型品種など)』の2区分に分けました。リビダなど、美しいけど小型のものはこれまでサイズの小ささゆえに入賞が難しかったのですが、これで入賞の可能性が高くなりますのでふるってご出展ください。なおこの両区分は窓の美しさを十分ご覧いただけるよう、バックライト付き展示台を用意します。

【会費納入のご案内】

- ◎ ハオルシア研究29号は2013年発行分の出版物です。入手ご希望の方は2013年分会費3000円をお払い下さい。
- ◎ ハオルシア研究30号は特別号になります。これまでハオルシア研究誌に掲載された優良品種を中心に、原種も含めた詳細な品種グループごとに収集の参考になるように写真を並べた、いわば入門図鑑的な内容になる予定です。写真700～1000枚、200ページ位の予定で、会員特価1万円(一般売価1万3千円)を予定しています。
- ◎ 2014年度の会費はハオルシア研究30号予約金3000円と31号予約購読料2000円との計5千円です。ただし31号は2015年の発行になりますので、予めご了承ください。29号分を合わせてご送金の場合は8千円となります。
- ◎ 同封の振込用紙に何号分(29号、30号、31号等)の申し込み金を明記してご送金ください。

【その他】

ハオルシアニュースはお知らせ掲示板的内容や編集後記的内容が中心でしたが、新たに会員の意見や要望を掲載する『読者の声』欄を設けることとしました。日本ハオルシア協会に対するご意見、ご要望がありましたら遠慮なく投稿して下さい。

【アロエ亜科の再分類について】

最近アロエ亜科についてDNA解析が進められています。一部の研究者(Manning等 2014、Rowley 2013、他)はその結果からアロエ属を多数の属に分解し、またハオルシアを3属に分解するという説を唱えています。しかしこれらの研究はほとんどが葉緑体DNAについてであり、また解析方法は分岐分析のみです。

分岐分析には様々な前提があり、例えば進化はすべて2岐分岐的に起こると仮定しているのが、多分岐や雑種起源のグループがあると正確な計算が出来ません。そしてハオルシアや一部のアロエなどごく最近進化した仲間の進化はむしろ網目状進化(相互浸透交雑による進化)だと推定されます。そうなると分岐分析は全く不正確なことになりますが、実際これら研究者が提唱する分類体系には全くばからしいものがあります(例えば、アロエ・アリストータはH。(ハオルシア)・マキシマと同じ属になり、一方、H. ミニマはH. マキシマとは別グループに入れられるなど)。これらの研究者はおそらく机上のDNA電気泳動の縞模様しか見ておらず、実験材料の産地はもちろん、植物そのものも詳しく観察したことがないのでしょう。実際の植物を全く知らない人間がコンピューターの計算結果をうのみにして分類するとこんなことになるという悪しき典型例です。

また種分化においてはほとんどが(少なくともアロエやハオルシアでは)ある種から新しい種が分離して進化するというパターンだと推定されます。この場合分岐分析では新しい種は単系統ですが、元の種は偽系統になります。現存する種が偽系統だと言うことは大きな矛盾です。つまり単系統、偽系統という基本概念も含め、分岐分析的手法は2岐分岐的パターンが明瞭になる『科』程度以上のグループの分析には適用できるが、属以下のグループの分析には適さないと思われます。

さらにアロエやハオルシア、ガステリアでは、花を見れば植物体そのものを全く見なくてもその属の同定を間違えることはありません。つまり花の形状は属ごとに全く特徴的であり、安定しているわけです。加えてアロエやハオルシア、ガステリアではそれぞれの属内では容易に交配可能ですが、属間雑種は困難、またはほとんど不可能です(ガステリアはアロエや一部のハオルシアと交配可能ですが、同属種間ほど容易ではありません)。つまり遺伝的親近関係でもこれら3属の基本区分は確立されています。Manning等はアロエ・アリスタータがH. マキシマと交配可能とでも言うのでしょうか？

DNA解析の結果、それまでの分類が見直された例はたくさんありますが、いずれの場合もDNA解析以外の形態的、遺伝的あるいは生態的特徴に基づく区分が見直され、それらの特徴に基づく区分が互いに一致して初めて分類体系の変更が合意されています。他の形態的、遺伝的、生態的特徴を一切無視して、DNA解析の結果だけで分類体系が変更された例は私の知る限りありません。Manning等は彼らの分類を支持する形態的、遺伝的、生態的特徴を示すべきですが、まず無理でしょう。

KFC Hall / KFC Hall Annex 搬入図面

